

1. 調査区分の状況

- 国語、算数・数学：A、B区分別で実施（H18予備調査、H19本調査開始当初～）
- 理科：A、B区分を分けず、一体として出題（H24理科追加当初～）
- 英語：A、B区分を分けず、一体として出題（予定）（H30予備調査、H31本調査～）

主として「知識」に関する問題（A）

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能など

主として「活用」に関する問題（B）

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

2. H18当時の状況等

- 国際学力調査（PISA 2003）における読解力の低下等を課題と認識。
- 学習指導要領のH20改訂に向けて教育課程部会等で並行して行われていた議論を考慮。

（参考）「全国的な学力調査の具体的な実施方法等について（報告）」（H18.4.25）（抜粋）

- ◆ 「昨年10月の中央教育審議会答申や、本年2月の中央教育審議会教育課程部会の審議経過報告においては、現行の学習指導要領の学力観については様々な議論があるが、基礎的・基本的な知識・技能と、自ら学び自ら考える力の両方を総合的に育成することが必要であるとしている。また、その際、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させることや、思考力・判断力・表現力をはぐくみ、学習や生活において、知識・技能等を活用することを重視している。」

3. H24当時の状況等

- 国際学力調査（PISA 2009）において読解力の平均得点が有意に上昇。
- 理科を追加しても1日で調査を終了する観点等を考慮。

（参考）全国的な学力調査に関する専門家会議配布資料4-2（H23.10.19）（抜粋）

- ◆ 「「理科」における教科の特性や児童生徒や学校の負担増への配慮から、「知識」と「活用」に関する問題を一体として問う」
- ◆ 「理科については、「知識」「活用」を一体的に問うこと（1単位時間）により、国語、算数・数学とあわせて調査を1日で行う」

4. 現在（H29）の状況等

- 新学習指導要領は、教科等の目標や内容を、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に基づき再整理。
- 全国学力・学習状況調査が授業改善等に大きな影響を与えてきたことを改めて確認。
- 英語調査がH31より追加されることにより、調査時間は4単位時間増の見込み。

（参考）「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）」（H28.12.21）（抜粋）

- ◆ 「知識や技能は、思考・判断・表現を通じて習得されたり、その過程で活用されたりするもの」
- ◆ 「資質・能力の三つの柱は相互に関係し合いながら育成されるもの」
- ◆ 「全国学力・学習状況調査において、主として「活用」に関する問題（いわゆるB問題）が出題され、関係者の意識改革や授業改善に大きな影響を与えた」